

板室温泉三大祈願所

那須連山の山あいなたたずむいで湯の郷、板室温泉。

この地に古くから伝わる、三つの祈願所【パワースポット】をご紹介します。

壹 板室温泉神社

関節炎・神経痛治療祈願

当本殿は文政10年(1827)の再建で工匠は不明です。湯治世話人であった柏屋治右衛門・大黒屋利兵衛・江戸屋藤右衛門の三氏の寄進により建立されたものです。

間口4尺5寸(133cm)、奥行4尺(121cm)で周囲には枘組されて廻廊が取り付けられています。前方階段に接する柱には松竹梅に孔雀、梁には竜の彫刻があります。

本殿4周は扉を除いて前面に動植物の精巧な彫刻が施されており、屋根は流造木羽葺にして全容流麗です。

【祭礼 10月8日】



貳 籠岩地蔵

乳がん治療祈願

板室温泉の籠岩地蔵は、霊石霊石のくぼみに神が宿ると考えた先人たちが湯治に訪れ、病全快のお礼にといつからともなく地蔵様を寄進したのが始まりです。

地蔵は、乳癌が治癒したことへのお礼で左胸をあらわした山の神の石像とも伝えられています。杖いらずの湯「板室温泉」とともに、無病息災家内安全のお地蔵様としてしまわれています。

【祭礼 8月8日】



参 木の俣地蔵

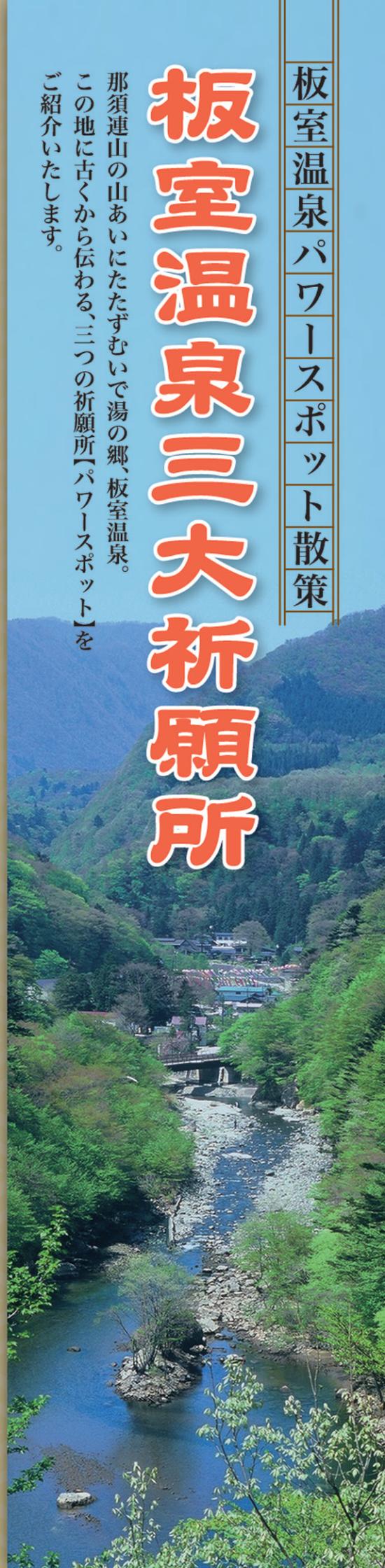
子宝祈願

木の俣地蔵は伝説によると、前九年の役で阿部貞任がこの地に陣を置き、守りの主本尊である金の地蔵尊をカツラの木の下のに残したまま戦に出たため、源頼義との一戦に敗退したと伝えられています。

また木の俣地蔵を題材にした民話によると、会津の農民がこの本尊を見つけ持ち去ったところ、毎晩「きのまたこいし、きのまたこいし」と泣くので、罰を恐れてもとの場所に戻した、というものがあります。

戦前は霊験あらたかな子宝祈願の地蔵尊として多くの参詣人を集め、そして現在はこのカツラの巨木(推定樹齢500年)は、とちぎ名木百選のひとつに定められています。

【祭礼 4月24日】



国民保養温泉地 **板室温泉**

那須連山の西の端。

那珂川の支流、湯川沿い。

1059年、那須三郎宗重に

よって発見されたという板室温泉。

「下野(しもつけ)の薬湯」と

いわれるアルカリ性単純泉、

四十度前後とややぬるめの湯は、

神経痛や高血圧、関節炎、運動障害、

椎間板ヘルニア、動脈硬化症などに

特効があるといわれ、訪れる人々の

心とからだを癒し続けてきました。

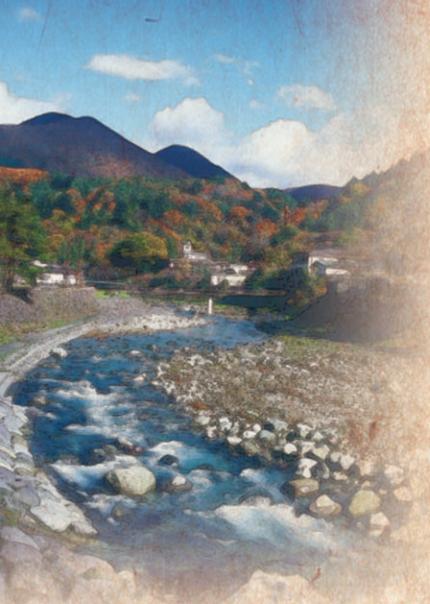
手付かずの自然に囲まれた

山あいの渓谷に、周りの景色に

とけ込むようにたたずむ湯の宿十二軒。

初めてのお客様も「おかえりなさい」の

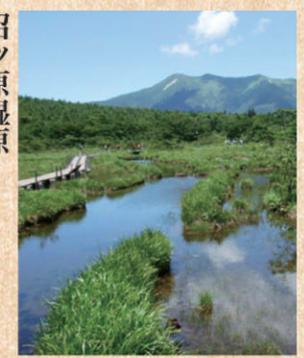
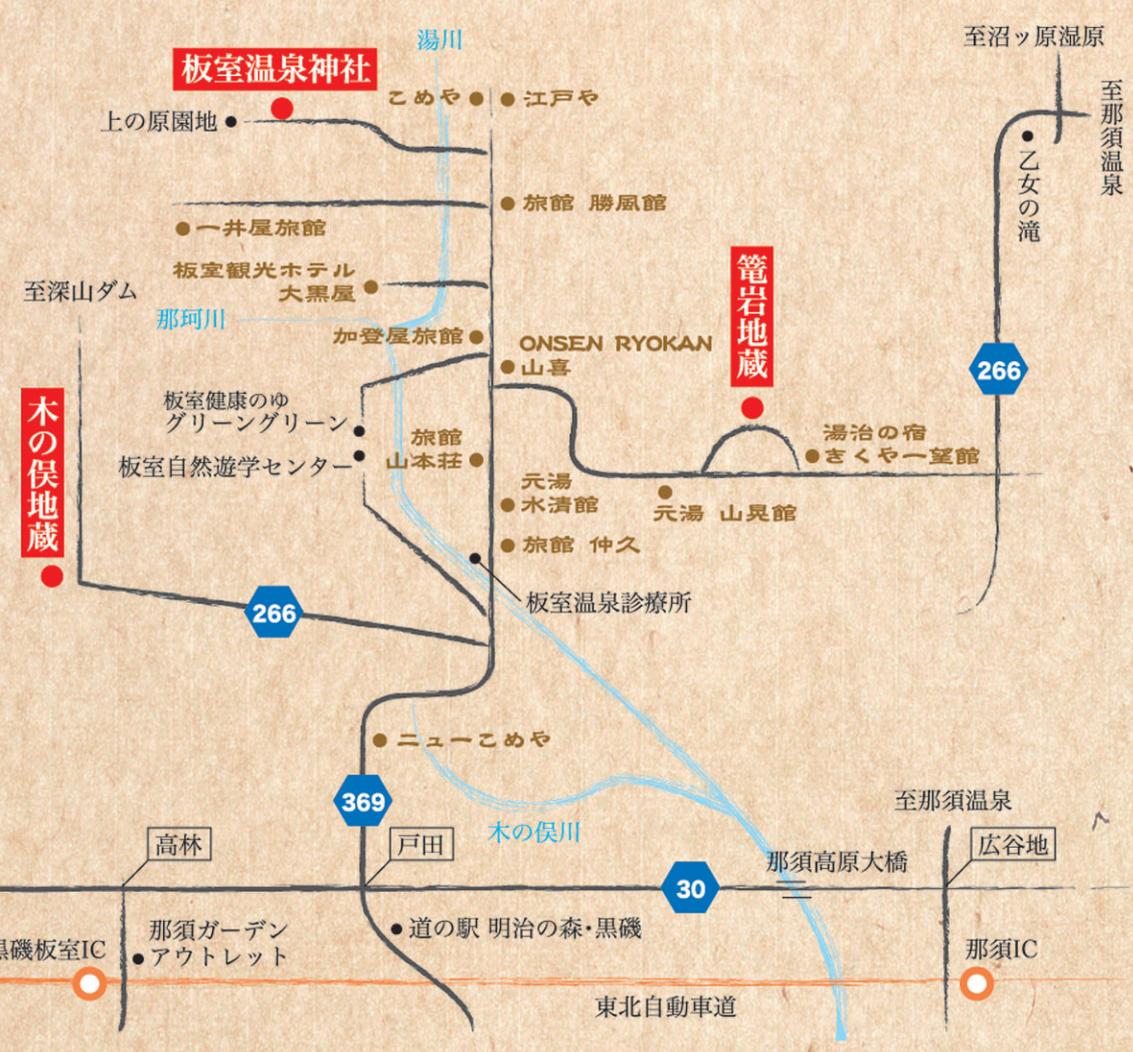
気持ちでお出迎えます。



板室温泉案内地図

主な年中行事

- 6月15日 ニッコウキスゲキャンペーン
- 7月20日 木の俣神社祭礼
- 4月24日 板室温泉籠岩神社まつり
- 8月8日 板室温泉神社祭礼
- 10月8日 板室温泉神社祭礼



沼ッ原湿原

那須連山の西端標高1230mに広がる垂高山の湿原です。植物は約230種確認されており、湿原内に整備された木道を周回しながら、四季折々の植物を楽しむことができます。特に6月下旬から7月中旬に湿原を黄色に染めるニッコウキスゲの咲く時期には多くのハイカーが訪れます。



乙女の滝

白笹山から流れる沢名川にある滝で、美しい乙女が髪を洗っていた水が、乙女の髪に見えたという逸話が名の由来です。



深山ダム

那須野ヶ原一帯のかんがい用水、上水道発電を目的として造られました。5月下旬には新緑、10月下旬には紅葉が美しく広がります。